執筆者紹介

古畑康雄 Furuhata Yasuo

一九六六年生まれ。共同通信社記者、編集者。中国メディア・ネット動向。『「網民」の反乱―ネットは中国を変えるか？』『習近平時代のネット社会―「壁」と「微」の中国』『精日―加速度的に日本化する中国人の群像』

渡辺浩平 Watanabe Kohei

一九五八年生まれ。北海道大学メディア・コミュニケーション研究院教授。メディア論。『変わる中国 変わるメディア』『吉田満―戦艦大和学徒兵の五十六年』『第七師団と戦争の時代―帝国日本の北の記憶』

房 満満 Fang Manman

一九八九年生まれ。株式会社テムジン。ディレクター。「激動の家族史を記録する―中国・新たな歴史記録」「封鎖都市・武漢―七六日間 市民の記録」「出櫃―中国 ＬＧＢＴの叫び」（以上、ドキュメンタリー作品）

砂山幸雄 Sunayama Yukio

一九五四年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。現代中国政治・思想。「見失われた「一九八九年」―ポスト冷戦期中国の思想文化動向（1989–2012）」『近代中国・教科書と日本』（共編著）『世界冷戦の中の選択』（編著）

竹内 亮 Takeuchi Ryo

一九七八年生まれ。ドキュメンタリー監督。「長江―天と地の大紀行」「我住在這里的理由（私がここに住む理由）」「好久不見、武漢」（お久しぶりです、武漢）「走近大涼山（大涼山）」（以上、ドキュメンタリー作品）

張 放 Zhang Fang

一九八四年生まれ。上海外国語大学社会科学部副教授。現代中国政治・文化。「海外学者論毛沢東的世界影響―研究現状及反思」「〈北京週報〉的毛沢東思想対外宣伝研究」「中共幹部子弟小学歴史初探」

和田英穂 Wada Hideho

一九七三年生まれ。尚絅大学現代文化学部教授。中国近現代史、台湾近現代史、日中・日台関係史。「裁かれた憲兵―中国国民政府の戦犯裁判を中心に」「棄てられた台湾人―台湾人元軍人・軍属及び戦犯の釈放と補償請求をめぐって」「日本の高校海外修学旅行に関する一考察―増え続ける台湾修学旅行を事例として」

劉 暁茜 Liu Xiaoqian

中国農業大学人文与発展学院開発管理学科講師。社会福祉、ジェンダー、開発人類学。〝Care as Bureaucratic Lubricant: The Role of Female Care Workers in an Old People's Home in Rural China〟〝Heterotopic Temporalities: On Waiting and Time-scapes in the Old People's Homes in Rural China〟〝Asceticism: From World Renouncing to World Engaging〟

趙 旭東 Zhao Xudong

一九六五年生まれ。中国人民大学人類学研究所教授・所長、中国人民大学社会学理論与方法研究中心研究員。人類学、政治法律人類学、インターネット人類学。『権力与公正―郷土社会的糾紛解決与権威多元』『文化的表達―人類学的視野』『文化転型人類学』

劉 征宇 Liu Zhengyu

一九八五年生まれ。国立民族学博物館外来研究員。文化人類学、歴史学、中国食文化研究。「中国都市部の家庭の食生活に関する歴史民族誌―社会主義制度下（1949-2018年）の天津市の事例」『社会主義制度下的中国飲食文化与日常生活』（共編著）〝Western Cuisine Culture in Contemporary China: A Case Study on Haute French Cuisine in High-class Hotels and Restaurants in Urban Tianjin〟

宗 暁蓮 Zong Xiaolian

一九七一年生まれ。中国中央民族大学元講師、西南学院大学非常勤講師。文化人類学。『旅遊開発與文化変遷―以雲南省麗江県納西族文化為例』〝Research on the Localization and Delocalization Phenomenon of Tourist Souvenirs: With the Tourist Souvenirs Market in Old Town of Lijiang of Yunnan Province as an Example〟「観光文脈における民俗宗教―雲南省麗江ナシ族トンパ教の宗教から民俗活動への展開を事例として」

景 軍 Jing Jun

一九五八年生まれ。清華大学教授。医学人類学。*The Temple of Memories, Feeding China's Little Emperors*（編著）『公民健康与社会理論』

何 明 He Ming

一九五九年生まれ。雲南大学民族学与社会学学院教授。中国南西部と東南アジアの民族グループとの相互作用、民族学と人類学の理論的方法。*Ethnicity and Religion in Southwest China*（主編）〝Discrimination and Social Exclusion in the Outbreak of COVID-19〟『民族学重構―認識論、研究議題和方法創新』

周 俊宇 Jhou Jyun-yu

台湾・国立政治大学台湾史研究所助理教授。近現代台湾政治思想史・政治文化史。『党国与象徴―中華民国国定節日的歴史』「もう一つの新嘗祭―植民地台湾における祭日としての展開」『台湾研究入門』（共著）

平井 新 Hirai Arata

早稲田大学地域・地域間研究機構台湾研究所次席研究員（研究院講師）。比較政治学、移行期正義論、台湾地域研究。『台湾研究入門』（共著）「現代台湾における移行期正義の形成過程―英文政権期の「転型正義」関連法規の制定と運用を中心に」「現代台湾における重層的な移行期正義の展開」

駒込 武 Komagome Takeshi

一九六二年生まれ。京都大学大学院教育学研究科教授。教育史、台湾近現代史。『世界史のなかの台湾植民地支配』『生活綴方で編む「戦後史」』（編著）『台湾、あるいは孤立無援の島の思想』（翻訳）

金 湛 Jin Zhan

一九七三年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。中国農業経済・農村社会。『経済成長のダイナミズムと地域格差』（共著）「中国における農地流動化の推進と農業経営への影響―湖南省S県の事例」（共著）「所有、組織、規模―〝三権分置〟政策に対する考察」

高 明潔 Gao Mingjie

愛知大学現代中国学部教授。中国人類学研究、中国民族問題・多文化共生社会研究。「二一世紀の国民国家建設の可能性―日中における多文化共生の取り組みの比較を通して」「当代中国研究在社会科学中之地位和人類共同体中的中国表述」「中国の公共領域における第三の空間の在り方―〝微信〟と〝騰訊視頻〟を中心に」

翻訳者紹介

白　美蘭 Bai Meilan

名古屋大学大学院国際言語文化研究科修士課程修了。日本語教育。第二言語習得。

飯田直美 Iida Naomi

一九七三年生まれ。愛知大学国際問題研究所補助研究員。中国文学。「姻族の台頭と男性の参加」（翻訳）

野口　武 Noguchi Takeru

愛知大学非常勤講師。中国近代史、日中教育史。「日清戦争期、山東巡撫李秉衡の黄河統治について」「日清戦争期山東の財政政策と財源獲得策について」「日清貿易研究所出身者の「立身」と教育機会(2)」

学会通信

◎学会員活動（二〇二一年十月～二〇二二年三月）

金　湛　「中国の農村社会における共有経済の創出と地域福祉―湖南省羊村の取り組み」（共著、『中国21』Vol・55、二〇二一年一二月）、"Ecological Migration Policy and Livestock Farm Management," Y. Higano et al. (eds.), *New Frontiers of Policy Evaluation in Regional Science*, Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2022.

薛　鳴　「中国語におけるテクノニミーとその実態―日本語と比較しながら」（愛知大学語学教育研究室紀要『言語と文化』第四五号、二〇二二年一月）、書評「周星著『生熟有度―漢人社会及文化的一項結構主義人類学研究』」（『中国21』Vol・55、二〇二一年一二月）、「基於中日対比的親族称謂研究」（中国蘇州大学外国語学院主催学術講演、二〇二一年一〇月一一日）

松岡正子　『青藏高原東部的羌族與藏族―2008汶川地震前後的人口流動與文化變遷（論文篇／映像篇）』（黄英哲・陳奕汎監訳、允晨文化實業、二〇二二年三月）、「羌繡を売る女性たち―災害復興と女性の就労」（『国際問題研究所紀要』一五九号、二〇二二年三月）、「超高齢社会中老年人與子女的選択―以台湾金門島珠山村為事例」（『亜太区域、両岸関係與厦門金門角色』愛知大学国研叢書第五期第一冊、二〇二二年三月）

中国21 Vol・57 予告（22年9月刊行予定）

特集◉ガバナンス（仮題）

一九九〇年代後半に現代企業制度の確立を目標とした「コーポレート・ガバナンス」が中国において注目されるようになった。二〇一〇年代に入ってから、社会ガバナンスや国家ガバナンスが唱えられ、特に二〇一三年共産党の第一八期三中全会以降「国家ガバナンス体系とガバナンス能力の現代化」が唱えられた。

本特集では、中国のガバナンスに関わる個別的な各領域を取り上げ、多角的、総合的に考察し、その構造的構成体としてのガバナンスの特質を明らかにする。まず、政治学や政治社会学の視点から、党・国家体制における国家ガバナンスの特質を考察する。次に、社会学の視点から基層社会のガバナンスの問題を明らかにする。さらに、経済学や社会学の視点から、経済社会におけるガバナンスの問題、特に共産党と国有企業のコーポレート・ガバナンスの課題を考察する。最後に、国際関係論、国際政治学のアプローチから、中国の外交政策を通して、国際的要因から中国のガバナンスの特徴を明らかにしたい。

編集後記――『中国21』ではこれまでに、Vol・3「中国の民族問題」（一九九八年）、Vol・19「内モンゴルはいま―民族区域自治の素顔」（二〇〇四年）、Vol・25「漢民族をどう見るか」（二〇〇六年）の主編を担当した。今回は懐かしい思いで一五年ぶりに主編作業に携わったが、二〇二〇年に構想した民族関係の特集は諸事情で難航したため、あらためて本号を企画するに至った。◇本号はまず、教育研究は発信側と受信側からなる媒体（medium）でもあるという私自身の認識に基づき企画したものである。また、二〇二〇年度から愛知大学現代中国学部の現地プログラムがコロナで現地実施できなくなったものの、学生は南開大学・台湾師範大学・マレーシア南方大学の教員による講義をリアルタイム方式で遠隔受講した。この日本で唯一のオンライン留学の実績は、ＳＮＳを大いに利用することで日本との物理的な距離を縮め、多様化しつつある中華社会のリアルを提供するものでもあったことにも触発された。◇コロナの影響で断念した内容もあるが、幸いにもメイン企画の座談会や竹内亮監督へのインタビューは実現した。ひとえに本誌の発行人である愛知大学現代中国学会長の砂山幸雄教授の多大なご協力によるもので、感謝の意を特筆しておきたい。座談会参加者や竹内亮監督をはじめ、執筆者および中国語を翻訳した方々、また景軍教授の原稿翻訳にアドバイスしていただいた福岡大学の田村和彦教授、煩瑣な事務連絡を担当した学会室の白美蘭様にもお礼を申しあげたい。◇コロナの終息、並びにロシアとウクライナの戦争の終結を願いながら、本号をお届け致します。（高 明潔）

投稿原稿募集　新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る　②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度（400字詰原稿用紙換算）　③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し２部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはｅメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会　E-mail：china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の査読を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21編集委員会

〔編集長〕金 湛　安部 悟　阿部宏忠　川村亜樹　高 明潔　唐 燕霞

愛知大学現代中国学部 http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html

中国21 Vol.56

特集 変わりゆくメディアのなかの“中国”

2022年３月25日発行

ISBN 978-4-497-22206-0　C3090

編　集　愛知大学現代中国学会
名古屋市中村区平池町4-60-6　〒453-8777
Tel. 052-564-6128　Fax. 052-564-6228

発行人　砂山幸雄

発売元　株式会社 東方書店
東京都千代田区神田神保町1-3　Tel. 03-3294-1001

制作印刷　株式会社 あるむ
名古屋市中区千代田3-1-12　Tel. 052-332-0861